



BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 32 号

平成 28 年 11 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

03-3918-7311 (代)

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

さざえ堂の雪

表現学部 表現文化学科

教授 森 晴 彦

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁：BSR レポート①
- 3 頁：BSR レポート②
- 4 頁：今後の予定

昨年の 2 月の寒い日のことだ。一目で外部の方とわかる初老の男性がおぼつかない足取りで銀杏並木を歩いていたので声をかけた。たまたま構内は私たち 2 人のみ。もちろん行く先への案内と場合によってはそこまでのエスコートのためだ。

男性の目的は、さざえ堂だった。聞いた話をまとめれば、自家用セスナ？ で墜落事故を起こした。機は大破し怪我はしたが命に別条はなかった。さざえ堂をお参りしているので、さざえ堂のご利益で助かった。だから御礼に来た——という内容だった（お名前を聞き忘れたが、この記事が目留まればご一報ください）。男性の話を聞いて、『今昔物語集』等に掲載の検非違使忠明の清水の話、そう、観音信仰の現世利益を思い出したが、同時に補陀落渡海も想起した。阿弥陀様の元へは直接行けぬなら、まず観音様の処へ行き、そこから……という考えである。そして藤原俊成のことも想起した。定家父であり平安末期の大歌人は「白銀光さかりにて、普賢大士来至す」を題として「白妙

に月か雪かと思えつるは西をさしける光なりけり」（極楽六時讃歌）と法華持経者へ普賢大士来至の歌を詠んだ。普賢に観音を越えて弥陀のところまで引導してもらい授記に預らせてもらうわけである。

俊成は晩年、臨終に際し無停滞に『法華経』普賢品を読経し、雪を執拗に所望した。「めでたき物かな、猶えもいわれぬ物かな、猶召之、おもしろきものかな」と周囲を「頗成恐取隠之」（明月記）とさせた雪への拘泥は、雪を「雪＝白＝西＝普賢大士の来至」と解し、普賢に浄土への引導を願ったわけである（『国文学踏査』21 号参照）。

補陀落をめざす観音信仰も普賢大士来至も、極楽浄土への引接のためで、俊成の歌は源信の『浄業和讃』に拠るが彼の『普賢講作法』には弥陀・釈迦・普賢、一切三宝に帰依とある……と、雑駁にあれこれと脳裏をよぎったが、それもこれもさざえ堂の聖観自在菩薩が私に想起させたのだろうか。

今冬もまたさざえ堂に白雪が降る。

BSR レポート①

大いに盛り上がった「第 4 回鴨台祭」

鴨台祭実行委員会担当・学長補佐 塩入法道

今年は大正 15 年（1926）に設立した本学の創立 90 周年にあたり、また大学祭も「銀杏祭」と称していた時期を含めると 40 回目となる記念すべき学祭となりました。

「仏の顔は 3 度まで、本気の祭りは第 4 回」という大胆なテーマを掲げ、当初より実行委員会の学生の並々ならぬ意気込みが感じられ、われわれ教職員も「今年はやってくれるぞ」と思っていました。というのは、去年は月～火（祝日）という日程で、しかも雨にたたられ 2 日間の入場者は 8000 人程度にとどまり少し残念な結果でした。今年は、天気のことば運まかせですが、創立 90 周年の節目であり土～日ということもあって、目標は 12,000 人。なお大学祭のレベルアップを図るために、3 年前よりわれわれ数名の教員も実行委員会の一員に加わり、学生との月 1 回程度の打ち合わせ会を持ち、様々な相談やアドバイスをしてきました。

全学が一丸となって鴨台祭を盛り上げ、また学生の本分である学習の成果も発信すべく、従来も個々に参加してはいたのですが、今回より「アカデミック企画」と銘打って学生の企画と



【アカデミック企画の一室】

は別の枠を設けました。9 つの学科・コースより参加があり、いわゆる「タコヤキ文化祭」からは完全に脱皮したと言えます（もちろんタコヤキもありましたが）。

初日 5 日の朝、私は 9 時ごろ大学に到着。空は曇に覆われており少し心配になりましたが、10 時のオープニングにはすっかり晴れ上がり、まずは一安心。出足も順調です。



【人気のパフォーマンス企画】

第 4 回鴨台祭は、オープニングとフィナーレのセレモニーをはじめとし、恒例のお笑いライブや人気声優のトークショーやミス・ミスターコンテストなど盛りだくさんの本部企画、アカデミックを含め

36 の教室企画、12 のパフォーマンス企画、24 の模擬店企画など、鴨台祭自体のイベントも充実していたと言えます。その他、「入試相談会」および「保護者向け就職ガイダンス」等もあわせて開催されました。

特に本年は 90 周年記念の「ホームカミングディ」のイベントが、星野英紀・小峰彌彦・多田孝文・勝崎裕彦の歴代学長と大塚伸夫現学長による座談会形式の講演会をメインに行われ、多くの同窓生で賑いました。また吹奏楽団の演奏と渡邊恵理実行委員長のお迎えの挨拶の後、しばらく鴨台祭を自由に見学してもらい、鴨台食堂で懇親会を行いました。同窓生の皆さまには、久しぶりの母校で、後輩たちの活躍の様子を十分見ていただいたと思います。

次は 100 周年です。大学は何と言っても学生が主体です。本学が 100 周年をどのように迎えるか、それはどのような学生を育て送り出していくか、また学生がどのように活躍してくれるかにかかっています。

さて、話題を鴨台祭に戻しましょう。

入出は＜12,497 名＞。目標を突破！「天候にも恵まれ」などと表現しますが、実は、天候や曜日ばかりではなく、実行委員会の地道な準備・広報の結果だと思います。クレームやトラブルもほとんどなく、まずは大成功でした。



【行列のできた模擬店】

フィナーレで、アンケートにもとづきミス・ミスターコンテストおよび教室・パフォーマンス・模擬店の各企画の優秀賞が発表され、最も人気が高かったダブルタッチサークル「鴉縄」が最優秀賞に輝きました。確かにすばらしいパフォーマンスでしたが、私としては実行委員長をはじめとする鴨台祭実行委員会に特別最優秀賞を進呈したい。本当に学生たちは良くやりました。

【フィナーレでの
実行委員長の最後の挨拶】

【第 4 回鴨台祭ポスター】

BSR レポート②

仏教学科の第 4 回鴨台祭

仏教学科助手 池田そのみ

今年度の仏教学科の鴨台祭は、「仏教巡礼」と題しての企画となった。普段の生活や身近にあるものが仏教と深くかわっていることを大正大学仏教学科から発信したいと考えた。昨年より学科として参加しているので、前年の反省を踏まえつつ練った企画は、「五感」から仏教を感じ取ることでできるものとなった。

まずは仏教学科の花といえる、学生による「法要」である。さざえ堂御前にて 4 宗派(天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗)の法要をした。一方、礼拝堂で本尊御前にて真言宗豊山派の学生による「大般若転読」は、ダイナミックな手法と読経の音程に引き込まれるようであった。修行中ではあるが、もてるすべての力を注ぐ学僧の姿は美しいもので、まさに読経の声や所作は耳と目を満足させるといえる。



【さざえ堂前での法要
(天台宗)】



【真言宗豊山派学生に
よる大般若転読会】

次に、いつもとは違った大学内でゆっくりと過ごしていただきたいと、「坊主カフェ」を展開した。法衣を着けたお坊さんとして学生が来場者と話をするという趣向である。他学科の学生や一般の来場者にとっては、通常では味わうことができないと長い時間話し込む姿もあり、和やかな風景がみられた。仏教伝来の国の



【坊主カフェ】

紹介をかねて、インド(カレーパンとチャイ)・中国(杏仁豆腐とウーロン茶)・日本(人形焼と緑茶)の味をご賞味いただいた。

最近、腕輪念珠をされている方が多くみられる。毎日お念珠に触れているという安心感にファッション性もあるので人気だ。

これを手作りしていただくとして「念珠作り体験」を考えた。自分のサイズに合ったものを作るので、小さな子供から逞しい男性まで多くの方が体験して下さった。作ったお念珠には、お坊さんが加持をしてお香の香りをつけてお持ち帰りいただいた。また併設した観音市ではプロの作った念珠各種を販売した。こちらもお加持をしてお渡しすると、お値段以上に有難いと喜んでいただけたようだ。



【念珠作り体験】

仏教体験の定番ともいえる「写経・写仏」では、教室に仏像を安置し道場をつくり、お作法の通りに写経と写仏の体験をしていただくことができた。予てよりやってみたかったけれど、お寺に行くほどでもないといわれる方も多く、字が苦手な方は写仏を選ばれ、椅子にかけて気軽だったと喜ばれた。

お寺の門前には市がたって賑わうイメージから「観音市」を開いた。フリーマーケット風バザーや懐かしい駄菓子や古本を並べてみた。破格な商品はあつというまになくなってしまった盛況振りであった。また観音様の御朱印を制作しお子さんに「御朱印」集めの体験もしてもらった。

そして、今回のメインとなる企画として「坂東三十三観音霊



【お砂と御朱印をいただきに
行った時の様子】

場お砂踏み)を開催した。昨年は四国八十八ヶ所霊場お砂踏みをおこない多くの方々にお願いいただいた。このお砂踏みは関係各所にお借りし展示したものだが、今年は自分たちの力で作り上げるのが目的であった。

6 月頃より坂東三十三観音札所の霊場会にご協力を仰ぎ、三十三ヶ寺にご対応いただいた。

夏休みに入り、学生や教職員が各ご寺院をめぐり、お砂と御朱印を授かった。この坂東の札所、都内は浅草寺の 1 寺のみで、他は千葉・埼玉・栃木・群馬・茨城・神奈川に多く広

がっている。そもそもは源頼朝が篤い観音信仰をもっており、西国三十三観音になぞらえて関東に成立させたものといわれている。有難いことに、33 のうちの 3 ケ寺は在学生の自坊であり、難なくお砂をいただいてしまった。とは言っても今年の夏は台風の当たり年で、前以てお約束させていただいた日時が土砂降りで、頂戴したお砂は水分たっぷりの状態だったり、写真を撮らせていただくにも雨にかすんでしまったりと多難であったし、群馬・栃木・茨城・千葉・神奈川へは小旅行になった。この企画に賛同し、後押ししてくださったご住職も多く、暖かく見守ってくださったのが何よりの収穫である。限られた予算の中で境内の砂を一堂に集め踏んでいただき三十三の観音様の功德を得ることができるというものをつくるには、どのように展示していくのかも学生間で激論があり、良きにつけ、悪しきにつけ、常に三十三観音に思いを寄せていた半年となった。

当日の朝、神達知純准教授を導師として法楽がされ、



【坂東三十三観音
お砂踏み霊場】

いよいよお手製のお砂踏み会場に魂が吹き込まれたときには感慨無量であった。その甲斐があって、11月5・6日の2日間で来場者は約400名となった。その年齢層も広く、ちいさなお子様から杖をついたご老人まで多くの方々が手を合わせてく

ださる姿を目の当たりにしたことで、喜びと同時に責任も感じたことであろう。真剣に向き合うこと、力を合わせることの喜びをこの鴨台祭で得ることができたであろう。

いささか盛りだくさんの内容ではあったが、仏教の教えがどれほど我々の生活に生かされているのかを皆様に気付いていただくことができたのではないだろうか、学生一人一人も再確認して智慧を深めたことを確信した鴨台祭となったことをご報告する。

今後の予定

11月12日(土)	11時～12時	花会式(菊まつり5宗派合同特別法要)	
	9時～13時	あさ市	南門 けやき広場
	13時～15時	お坊さんカフェ「僧話花」	3号館 1階
12月17日(土)	11時～12時	花会式(天台宗)	鴨台さざえ堂
	9時～13時	あさ市	南門 けやき広場
	13時～15時	お坊さんカフェ「僧話花」	3号館 1階

✽ 天台声明公演「大般若轉讀會」 12月17日(土) 15時開演 於 礼拝堂

公演鑑賞希望の方は、大正大学天台学研究室
台友会へお問い合わせください。



※BSR通信は、本学関係宗派の研究機関、仏教系新聞 各社、当該分野関係研究者および本学各学科などに配付しています。また、本学ホームページ「地域・社会貢献、鴨台プロジェクトセンター」の箇所にて公開しています。

巻頭言執筆者 紹介

森 晴彦 (もり はるひこ)

大正大学 表現学部 表現文化学科 教授

大阪芸術大学 芸術学部 卒業 大正大学大学院 文学研究科
修士課程 修了 同博士課程 単位取得満期退学 平成13年
11月に博士(文学)の学位を取得。

大正大学・明海大学非常勤講師等を経て、平成22年4月に大正
大学准教授に就任。平成27年4月より現職。

専門は文芸論、創作過程論、文芸思潮論。文芸作品の素材をどう
料理して作品を構築していくか、小説の構造、文芸思潮、文芸理論等
を通じて、文芸作品の美や様式や在り方を追究。

巻頭写真

さざえ堂を見上げる菊花

撮影：鴨台クリエイティブフィルム 土井 陽